

TSMC進出に伴う阿蘇市の活性化策は

不登校児童・生徒の現状と対策は



五嶋 義行

五嶋 企業時価総額60兆円の大企業、TSMCの半導体受託製造工場が車帰インターチェンジからおよそ15分の所にできる。国、県も対応に追われる中、阿蘇市の対応は。

山本政策防災課長

令和6年から稼働を見据えて、移住・定住、子育て、観光、農業など、あらゆる分野でのアプローチと交流人口の拡大を推し進めるべく、11月29日にプロジェクト準備委員会を発足しました。年内には県企業立地課へと出向き、情報収集に当たり、令和4年1月中旬にプロジェクトチーム設置を目指します。

五嶋 観光課の対応は。

秦観光課長

熊本地震以降、台湾からの入客を特に強化した結果、県内トップクラスの宿泊数を数え、サイクリング王国の台湾から多くのサイクリストを迎える体制もほぼ整っています。また、TSMCと関連企業の社員、ご家族の方々の休日、どっぷり阿蘇に浸っていたり、様々な計画を考えたいと思います。

五嶋 担当課としても今から検討することだが、最後に市長の意見を伺いたい。

佐藤市長 期待は大変膨らみますが、今度は自治体に対して負担が求められてきます。いかに効率的な連携ができるか、まさに阿蘇が持つ魅力を深くその会社に提案できるかが一番であります。

広域農道について

五嶋 令和3年度に事業完了予定の広域農道整備（赤水地区）が、令和4年度にずれ込むが。

佐伯農政課長

路床部が想定以上に軟弱で、設計変更等を含め、改良工事に不測の日数を要したことから、令和4年の秋口完了予定となっております。



二重峠トンネル付近



園田 浩文

園田 現在の阿蘇市内小中学生の不登校の現状は。

藤井教育課長

不登校は、病気等の理由以外で年間30日を超えて休んだ場合に計上されます。本年11月時点で小学生が7名、中学生が30名で、昨年に比べると増加傾向です。

園田 不登校の要因と対策は。

教育課長

家庭環境問題で無気力になる場合が一番多く、次いで学業、人間関係の順となっております。対策として令和元年から「阿蘇市不登校対策委員会」を設置し、「未然防止推進部会」及び「解消対策部会」において、解消に向けた取組を進めています。

TSMC県内進出「千載一遇のチャンス」。本腰を入れた検討を

園田

TSMCに関連する企業やその家族等人口は相当の数になると思われる。阿蘇市も通勤圏内、生活圏内となるが阿蘇市全体を含めた施策の検討を。

和田副市長 企業進出への取組として阿蘇市は阿蘇らしいものを提供して、近隣市町村との競争の中で勝ち取るのではなく、メニューを揃えて選んでいただくようなアプローチを考えています。

高木総務部長 情報収集を進め、「選ばれるまち」を念頭に、しっかりとした態勢づくりに取り組みます。

国直轄砂防事業の進捗と市道復旧について

園田 砂防事業の現状は。

中本建設課長

令和4年完成が花原川1、西湯浦川1、上の小屋川2、盤名木川です。現在詳細設計中が湯浦川2（琴川上流）、湯浦川5（南宮原）となっております。

園田

舗装などのインフラ補修の対応は。

藤田土木部長

阿蘇市と国交省との間で「直轄砂防中九推進班」があり、緊密に連携をとります。



工事が進む西湯浦川1砂防工事

スマート農業推進の取組は

坂梨保育園移転工事の経過と今後は



児玉 正孝

児玉 農業には「耕種農業」と「畜産農業」があり、米農家であれば高齢化による経営規模の縮小、担い手不足、米価の変動による収入減など、厳しいものがある。稲作、施設園芸、農業者が工夫を凝らし生産効率の向上や労働負担の低減、省力化を目指してICTやAIを導入しようとする経営体があるが導入実績は、**佐伯農政課長** 農業従事者の高齢化や担い手不足解消の糸口として期待をしている事業です。土地利用型では防除用ドローン、施設園芸ではイチゴのハウス内環境抑制や自動選別パック詰めロボットの実証が行われており、畜産では自動給餌器等の導入がなされています。

児玉 農業次世代人材投資事業により新規就農する人は稼げる農業を目指して施設園芸に取り組んでいる。阿蘇谷の水田を後世にいかに残していくかが肝要と思うが、稲作についてのスマート農業への支援は。

農政課長 土地利用型農業では大型農機を主に使いますが、自動操舵



GNSS を利用した基地局と誤差数センチの作業実現

システムを活用しても衛星のみでは作業の誤差が出ますので、国の事業を活用して誤差を補正する基地局の設置など、普及促進になるような取組を今後進めたいと考えています。

児玉 作業の効率化のために機械は大型化しているが、圃場の区画拡大と収益性向上には土地条件を良くし、米、麦、大豆といった栽培が出来るよう暗渠排水事業をセットした事業支援が必要ではないのか。

農政課長 現在、更新基盤整備事業で水路の布設替え等を実施しており、セットのできる分については今後検討していきます。

阿部経済部長 今後スマート農業がその経営体の後押しになってくるかと期待しています。



市原 正

市原 現在着工している坂梨保育園移転工事では、計画の段階で所管の福祉課は、区長、財産管理委員長、公民館長、地元議員を交えての説明会や、保護者会への説明会を開催し地域からの要望を聞いたが、実際の計画にどの様に取り入れたのか。

松岡福祉課長 今回の坂梨保育園移転は閉校した小学校の跡地校舎を活用することから、やはり地域に今まで根差し愛されてきた小学校を尊重することに配慮した設計をと要望され、具体的にはあくまでも保育園の安全性や利便性を第一優先に、昔からのなごりある石段や敷地内の史跡を残し、表向きの看板は、内向きにし、前庭にあずまやを建設し公園化する設計にしました。

市原 地元の要望を設計に取り入れる今回の福祉課の事業の進め方を私は高く評価する。

ところで、公共工事の追加工事が9月議会で問題視された、追加工事はあるのか。

福祉課長 旧校舎を活用するにあ

たり、隠れた部分の劣化は解体しないと分からないため心配しましたが、解体を終えかなり良好でしたので、今のところ追加工事等は予定していません。

今後の保育行政は

市原 新生児の出生数が減少する中で、今後の保育行政は、公立と私立の保育施設の今後の方向性は。

宮崎市民部長 出生数は減少傾向にありますが、国の基準もあり、安全な保育環境が最重要でありますので、現時点では、今の保育体制を、継続したいと考えています。



坂梨保育園移転工事の現場

今後の宅地開発計画について問う



森元 秀一

森元 市営住宅の整備状況は。

加藤住環境課長 市営住宅の戸数

としては合計708戸となります。

加えて現在建設中の赤水西住宅が2

棟21戸、今年度中には完成予定です。

森元 住宅内の空き室周辺の、除

草等の環境整備はどのようになっ

ているのか。

住環境課長

入居者に管理してい

ただくのが基本ですが、空き室の周

辺とか、また入居者で対応が困難な

場所については業者に委託したり、

市で対応しています。また、一部は

地域の方々のご協力により除草など

行っていたいただいているところもあ

ります。

森元

地域によって若い住民が増

えているところがあり、まちづくり

の一環として公園が必要だという声

を聞く。宅地開発を進める地域に

とって必要不可欠だと思うが。

住環境課長

地域において公園は、憩いの場、コミュニケーションの場、遊びの場、運動の場、また避難所など様々な機能を有していると思いま

すので、地域における生活環境として非常に重要であると認識しているところではあります。今後公園整備についてはその目的などに応じて関係課連携して検討していきたいと考えています。

乗合タクシーの弾力的な運行を

森元 古神2区、3区で利便性の

高い乗合タクシーの運行を。

山本政策防災課長 古神2区、3

区については、路線バスと乗合タク

シーとの境が分かりづらい区域にな

ります。実情に合わせて、より効果

的な内容を検討していきます。

他に、「ヤングケアラーの取組に

ついて」、「役所内にお悔みコー

ナーの設置を」の質問がありました。



田中 則次

田中 市には様々な遊休地、また

遊休施設がある。今回は旧畜産農業

協同組合跡地に特化して尋ねる。まず、

現状をどのように把握しているか。

廣瀬財政課長 九州北部豪雨災害、

熊本地震の際の災害廃棄物仮置場と

して緊急的に利用してきましたが、

その後、敷地面積が広大であること

もあり、管理が行き届いていない状

況です。

田中 以前、土地開発公社におい

て、芝生の広場を施工していただい

た後は、現状の通り。今後、企業誘

致等を含めた計画はあるか。

財政課長 相次ぐ災害により、や

むを得ず緊急かつ優先的に活用して

きましたので、利用計画は進んでお

りません

田中 ここ数年宮地地区において

は、異臭問題、畜舎問題等ネガテイ

ブな話が多かった。そうした中でも

住宅、人口ともこの地域は増加し、

公道を散歩されている方も多し。畜

協跡地に遊具を備えた公園を整備し、

進入路及び雑木等の整備を行うなど、

遊休市有地の環境保全を含めた 利活用について問う

環境保全に向けた計画ができないか。
財政課長 人口の増加に伴い交流の場が必要という点は理解しています。今後の財政状況、社会経済情勢を見ながら、有事の際に活用できるスペースとして、簡単な公園化も視野に検討していきたいと思えます。

田中 畜協跡地に特化して質問し

てきたが、ほかに様々な土地、施設

がある。行政としてプロジェクト

チームで積極的な活用の方向性は見

出せないか。

財政課長 引き続き、庁内の検討

委員会において議論を進めていきたく

と思います。

他に「工事変更に対する行政の考

え方について」の質問がありました。



旧畜協跡地の現況

ひのくに会館跡地利用は



菅 敏 徳

菅

ひのくに会館跡地利用の案として、建物を解体造成・分譲するなど、移住・定住促進に向けた環境整備を行うことはできないか。人口減少を抑え地域も活性化すると考える。宅地化を進めることで、一つの小さな街が生まれるのではないか。

荒木まちづくり課長

内牧の中心部であり、住宅がいいのか、商業施設がいいのか、様々な観点から検討し、民間資金が入るような形、すなわちPFI関係も検討していくべきと考えております。

菅

旧阿蘇町も過疎地域に指定され、過疎対策事業債を活用するための条件などがあるのか。

廣瀬財政課長

過疎対策事業債は国の配分額も限られており、阿蘇市過疎地域持続的発展計画に位置づけられていることなど、様々な要件がありますので、個別事案ごとに適性を判断することになります。

菅

ひのくに会館に特化した、地域住民の代表者を交えた検討委員会を立ち上げてはどうか。



ひのくに会館周辺

山本政策防災課長

将来阿蘇市にとって最善で有益となるよう、時期を見て判断したいと考えています。

菅

これからの活用次第では新しく生まれ変わる地域だと思いが、市長の見解を伺いたい。

佐藤市長

遊休地処分の方向性について、しっかりと内部において検討しながら、民間資本を活用し、いかに市の利益や発展につながっていくかが一番大事だと思っています。

他に「保護者による送迎時の安全確保は」の質問がありました。



議会広報研修会に参加しました

11月5日、議会広報特別委員会は熊本県町村議会議長会主催の議会広報研修会に参加しました。県内6町村（小国町、津奈木町、あさぎり町、多良木町、五木村、球磨村）の議会広報紙を、各市町村の広報紙編集関係者がオンラインで相互に評価し合い、紙面を見易くする工夫などについて研修しました。